



イーブイエー  
ダイレクト年金 e-VA

新変額個人年金保険(無配当)  
特別勘定グループ(GW)

# 月次運用実績レポート

## 2009年9月

特別勘定の名称	主な運用対象の投資信託	投資信託の運用会社
日本株インデックス型(GW)	インデックスファンド225VA (適格機関投資家向け)	日興アセットマネジメント株式会社
日本株アクティブ型(GW)	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3 (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社
海外株式型(GW)	ステート・ストリート外国株式 インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)	ステート・ストリート・グローバル ・アドバイザーズ株式会社
新興成長国株式型(GW)	JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)	JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社
海外債券型(GW)	ピムコ・海外債券ファンド (適格機関投資家専用)	ピムコジャパン リミテッド
日本債券型(GW)	MHAM物価連動国債ファンドVA (適格機関投資家専用)	みずほ投信投資顧問株式会社
海外リート型(GW)	ノムラ海外REIT インデックス・ ファンドVA(適格機関投資家専用)	野村アセットマネジメント株式会社
マネープール型(GW)	フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用)	フィデリティ投信株式会社

<引受保険会社>

アクサ生命保険株式会社



redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

特別勘定名称

# 日本株インデックス型(GW)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
日本株インデックス型(GW)	▲2.95%	1.92%	23.89%	▲9.87%	▲38.21%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.2%
投資信託	96.8%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

【参考】日本株インデックス型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## インデックスファンド225VA(適格機関投資家向け)

(運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
インデックス225VA	2.22%	25.44%	▲ 8.79%	▲ 13.33%	1.98%
日経平均株価(225種・東証)	1.76%	24.95%	▲ 10.01%	▲ 14.35%	1.10%
差異	0.47%	0.48%	1.21%	1.02%	0.88%

### <純資産総額>

純資産総額 182.01億円

※収益率は、1年以上の場合、年率ベースで、1年未満(3ヵ月間、6ヵ月間)は、年率換算していません。  
 ※ファンド(分配金再投資)の収益率は、当ファンド決算時に分配金があった場合の分配金を再購入(再投資)し、算出しています。  
 ※収益率・リスクともに月次の収益率より算出しています。設定日が月中の場合、設定日が属する月は含んでいません。

### <株式組入上位10業種>

業種名	ファンドのウエイト
1 電気機器	22.15%
2 情報・通信	8.05%
3 医薬品	7.46%
4 小売	7.14%
5 化学	7.07%
6 輸送用機器	6.41%
7 機械	4.97%
8 食料品	4.29%
9 精密機器	3.76%
10 サービス	2.74%

※ファンドのウエイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

### <株式組入上位10銘柄>

銘柄名	ファンドのウエイト
1 ファーストリテイリング	4.51%
2 京セラ	3.31%
3 ファナック	3.20%
4 ソフトバンク	2.35%
5 東京エレクトロン	2.28%
6 ホンダ	2.20%
7 信越化学工業	2.19%
8 キヤノン	2.16%
9 TDK	2.06%
10 KDDI	2.01%

(組入銘柄数225銘柄)  
 ※ファンドのウエイトはマザーファンドの対純資産総額比です。

### <資産構成>

株式	99.29%
一部上場	99.29%
二部上場	0.00%
地方単独	0.00%
ジャスダック	0.00%
その他	0.00%
株式先物	0.71%
株式実質	100.00%
現金その他	0.71%

※当ファンドの実質の組入比率です。

### <運用コメント>

月初10,492円53銭の日経平均株価は、軟調な米国株式市場や為替相場の円高傾向などが嫌気され、上旬に下落しました。その後、欧米株式市場やアジア株式市場の上昇につれて、日経平均株価はやや持ち直しました。しかし半月には、円高による業績悪化懸念から輸出関連株が売られたほか、金融担当相の中小・零細企業などに対する返済猶予制度構想を受けて銀行株にも売りが広がり、日経平均株価は再び軟調となりました。大型連休明け後、機関投資家などの買い戻しが入り日経平均株価は一時上昇しましたが、国内金融機関の増資観測や米国株式市場の軟化、さらに急激な円高進行など悪材料が重なり、急反落し、取引時間中に一時10,000円の大台を割り込みました。月末にかけては、円高の一服から日経平均株価は若干値を戻し、10,133円23銭で月末を迎えました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 日本株アクティブ型(GW)

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

運用方針

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点点を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
日本株 アクティブ型 (GW)	▲4.76%	0.75%	22.42%	▲11.34%	▲39.61%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	2.6%
投資信託	97.4%
合計	100.0%

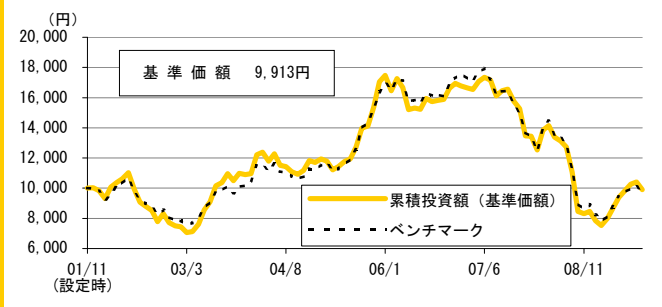
## 【参考】日本株アクティブ型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

#### 設定来の運用実績 (2009年9月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。※基準価額は信託報酬控除後のものです。

#### <運用コメント>

9月の東京株式市場は、堅調な海外市場に対して調整感が強まる展開となりました。金融株を中心とする米株安や金融機関に対する規制強化への懸念から、当月の日本株は月初より下落を強いられました。欧米株をはじめ主要株式市場は、景気回復期待などを背景にすぐに反発し、その後は軒並み上値追いの展開となりましたが、日本株は円高進行や新政権の出方をうかがう様子見ムードが相場の重石となり、揉み合いが続きました。月半ば過ぎには大手消費者金融の私的整理や金融行政の不透明感なども投資家心理を冷やすこととなりました。連休中の円高一服を好感して休み明けにやや戻したものの、財務相の市場介入に関する発言などを契機に再び円高が進行、加えて国内金融機関の大型増資発表を受けて株式需給の悪化懸念も追い討ちとなり株価は急落を余儀なくされ、弱含みのまま月末を迎えました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が▲5.10%、日経平均株価は▲3.42%となりました。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

#### ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

##### <資産別組入状況>

株式	96.7%
新株予約権証券(ワラ)	-
投資信託・投資証券	0.8%
現金・その他※	2.4%

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)2.2%を含みます。

##### <市場別組入状況>

東証1部	88.9%
東証2部	-
ジャスダック	1.1%
その他市場	7.6%

##### <組入上位5業種>

電気機器	22.7%
輸送用機器	8.0%
機械	7.9%
銀行業	7.2%
化学	5.8%

(対純資産総額比率)

\*各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

\*ファンドは短期資金の運用の一環として、委託会社が設定した「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」に投資する場合があります。これはあくまでも短期資金の運用であるため、組入上位10銘柄、市場別組入状況には含めず、資産としては「現金・その他」に分類いたしております。なお、未払金等の発生により、「現金・その他」の数値が「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」の数値を下回ることがあります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

商品概要	2009年10月(月次改訂)
形態	追加型投信/国内/株式
投資対象	わが国の株式等
設定日	2001年11月29日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

累積リターン	(2009年9月30日現在)				
	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	▲4.80%	1.06%	23.91%	▲10.47%	▲0.87%
ベンチマーク	▲5.10%	▲1.40%	18.39%	▲14.63%	▲3.96%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

※ベンチマーク：TOPIX(配当金込)

過去5期分の収益分配金(税込み)	
第3期(2004.11.30)	0円
第4期(2005.11.30)	0円
第5期(2006.11.30)	0円
第6期(2007.11.30)	0円
第7期(2008.12.01)	0円

#### 純資産総額 1,498.1 億円 (2009年9月30日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース)			(2009年8月31日現在)	
順位	銘柄	業種	比率	
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.1%	
2	ダイキン工業	機械	3.1%	
3	三菱電機	電気機器	2.8%	
4	オリックス	その他金融業	2.7%	
5	野村ホールディングス	証券・商品先物取引業	2.7%	
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.6%	
7	日本電産	電気機器	2.5%	
8	東芝	電気機器	2.5%	
9	ミスミグループ本社	卸売業	2.3%	
10	パナソニック電工	電気機器	1.9%	

(組入銘柄数:259) 上位10銘柄合計26.5%(対純資産総額比率)

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」は、組入上位10銘柄の対象から除いています。

(2009年8月31日現在)

特別勘定名称

# 海外株式型(GW)

運用方針

日本を除く主要先進国企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、MSCI KOKUSAIインデックスに連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外株式型 (GW)	1.11%	9.88%	32.33%	▲14.05%	▲35.18%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.0%
投資信託	97.0%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点点を「100」として指数化したものです。

【参考】 海外株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## ステート・ストリート外国株式インデックス・ファンドVA1(適格機関投資家専用)

(運用会社:ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ステート・ストリート 外国株式インデックス・ ファンドVA1	1.25%	10.52%	34.19%	▲ 13.07%	23.16%
MSCIコクサイ インデックス (円換算)	1.33%	10.82%	35.08%	▲ 12.01%	32.90%
差異	▲ 0.08%	▲ 0.30%	▲ 0.88%	▲ 1.05%	▲ 9.74%

### <総資産総額>

純資産総額 5,606百万円

### <組入銘柄数>

銘柄数(マザーファンド) 1,315

### <信託財産構成比>

項目	国名	比率	
外国株式	[全体]	97.6%	
	<北米>	57.0%	
		アメリカ	51.9%
		カナダ	5.1%
	<アジア・太平洋>	6.2%	
		オーストラリア	4.3%
		香港	1.2%
		シンガポール	0.7%
		ニュージーランド	0.1%
	<ヨーロッパ>	34.4%	
		イギリス	10.8%
		フランス	5.7%
		ドイツ	4.2%
		スイス	4.0%
		オランダ	1.3%
		イタリア	1.9%
		スペイン	2.5%
	スウェーデン	1.3%	
	フィンランド	0.6%	
	ベルギー	0.5%	
	アイルランド	0.1%	
	デンマーク	0.5%	
	ノルウェー	0.4%	
	ギリシャ	0.3%	
	ポルトガル	0.2%	
	オーストリア	0.2%	
その他(現金及び株価指数先物)		2.4%	

※マザーファンド・ベース  
※比率は対純資産で計算しています。

### <外国株式組入上位10銘柄>

	銘柄	国	業種	比率
1	EXXON MOBIL CORP	アメリカ	エネルギー	1.8%
2	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.1%
3	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	1.0%
4	GENERAL ELECTRIC CO	アメリカ	資本財	0.9%
5	PROCTER & GAMBLE CO	アメリカ	家庭用品・パーソナル用品	0.9%
6	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	各種金融	0.9%
7	JOHNSON&JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス	0.9%
8	BP PLC	イギリス	エネルギー	0.9%
9	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	0.9%
10	AT & T INC	アメリカ	電気通信サービス	0.8%

※マザーファンド・ベース  
※比率は対純資産で計算しています。

### <運用コメント>

#### <9月の市場概況>

9月の米国株式市場は、引き続き堅調な経済指標や、M&A市場に活発化の兆しが見え始めたことなどから、初旬から中旬にかけて堅調な展開が続きました。G20金融サミットでは、拡張的な財政・金融政策を続けることが確認されましたが、終盤にかけては上値が重くやや方向感を失った状態で、9月の取引を終えました。ダウ平均は9,712.28(前月比+2.27%)、ナスダック総合は2,122.42(前月比+5.64%)、S&P500指数は1,057.08(前月比+3.57%)で終了しました。

欧州株式市場は、米中のマクロ指標や買収観測が相場を支援し、中旬まで高値を迫る展開となりましたが、下旬はG20やドイツの総選挙などのイベントを控えて様子見となり、欧米のマクロ指標もまちまちだったため、株価は伸び悩みました。英FT指数は5,133.90(前月比+4.58%)、仏CAC指数は3,795.41(前月比+3.88%)、独DAX指数は5,675.16(前月比+3.85%)で終了しました。

アジア市場は、堅調な欧米市場の動きと中国株の反発に支えられ高値を更新し、後半は一時伸び悩む場面も見られましたが、年初来高値の水準で月内の取引を終えました。豪ASX200指数は4,743.60(前月比+5.91%)、香港ハンセン指数は20,955.25(前月比+6.24%)で終了しました。

外国為替市場は、為替介入への足元での反対姿勢や円安により輸出を推進する考えに否定的な見方を示した財務相の発言を受けて円高観測が高まり、日本円が買われる展開となりました。円は対米ドルで月間2.73%上昇の90.21円となりました。

MSCIコクサイ指数パフォーマンスは前月比+1.33%となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 新興成長国株式型(GW)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
新興成長国株式型(GW)	4.75%	12.36%	59.28%	10.77%	5.34%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	4.1%
投資信託	95.9%
合計	100.0%

## 【参考】 新興成長国株式型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### JPM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

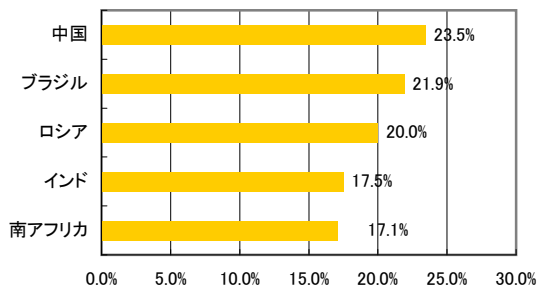
(運用会社:JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

#### <基準価額の騰落率>

	1ヶ月	3か月	6か月	1年	設定来
JPM・BRICS5・ファンド	5.1%	13.1%	62.7%	12.1%	28.1%

※騰落率については、基準価額に税引き前分配金を再投資して計算しております。  
 ※騰落率は実際の投資家利回りと異なります。  
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

#### <国別構成比率>



※マザーファンド・ベース  
 ※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

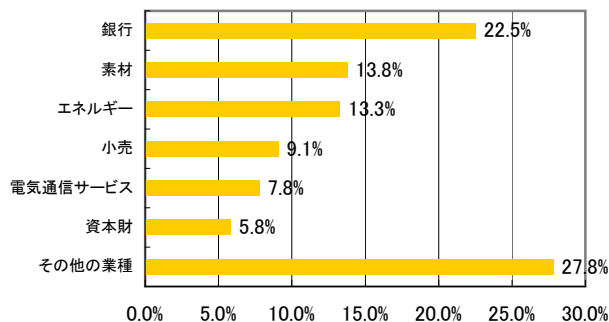
#### <株式組入上位10銘柄>(銘柄数 54銘柄)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	ズベルバンク	ロシア	銀行	4.70%
2	ヴァーレ	ブラジル	素材	4.27%
3	HDFC	インド	銀行	3.84%
4	招商銀行	中国	銀行	3.64%
5	中国建設銀行	中国	銀行	3.57%
6	ブラジル石油公社	ブラジル	エネルギー	3.34%
7	ノリルスクニッケル	ロシア	素材	3.25%
8	中国人寿保険	中国	保険	3.18%
9	ガスプロム	ロシア	エネルギー	2.98%
10	インフォシス・テクノロジーズ	インド	ソフトウェア・サービス	2.89%

(2009年8月31日現在)

※マザーファンド・ベース ※比率は対純資産で計算しています。

#### <業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース  
 ※比率は組入れ有価証券を100%として計算しております。

#### <運用コメント>

##### 市場概況

当月のBRICS5カ国を含む新興国株式市場は、全般的に上昇しました。中国での銀行融資拡大の持続性に対する懸念が後退し、投資家の関心は、世界経済の力強い回復力に移っているとみられます。最近発表された各国の経済指標に景気回復の兆しが見られたこと等が投資家心理の改善につながり、新興国株式市場の上昇を後押ししました。

BRICS5カ国の国別では、南アフリカを除く全ての国で上昇となりました。

##### 運用状況

- ・当ファンドの月末基準価額は11,689円、前月比5.1%の上昇となりました。
- ・国別の投資比率は中国、ブラジル、ロシアが上位となり、20%を上回る比率となりました。一方で、インド、南アフリカは20%以下の比率となりました。
- ・当月は株価要因はプラス、為替要因はマイナスとなりました。南アフリカを除く株式市場が好調に推移したため、全般的に円高になったものの、基準価額は上昇しました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 海外債券型(GW)

運用方針

日本を除く世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
海外債券型 (GW)	▲1.31%	1.74%	8.50%	▲2.58%	▲5.16%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	3.0%
投資信託	97.0%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

## 【参考】海外債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### ピムコ・海外債券ファンド(適格機関投資家専用)

(運用会社:ピムコジャパン リミテッド)

#### <基準価額の騰落率>

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ピムコ 海外債券ファンド	▲1.26%	2.12%	9.45%	▲1.41%	28.24%
ベンチマーク	▲2.00%	▲1.17%	1.89%	▲6.70%	26.72%
差異	0.74%	3.28%	7.56%	5.28%	1.52%

※ベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(除く日本、為替ヘッジなし)90%、1ヶ月日本円Libor10%を合成したものです。

#### <ファンドの一般特性>

平均クーポン	3.69%
平均直接利回り	3.93%
平均最終利回り	4.34%
平均デュレーション	6.08年
平均償還期間	8.17年
平均格付け	AA+
債券組入比率	98.71%

#### <国別構成比>

国名	組入比率
アメリカ	28.87%
ユーロ圏	53.92%
イギリス	11.55%
カナダ	4.15%
スウェーデン	0.00%
ポーランド	0.00%
オーストラリア	1.48%
日本	0.03%
合計	100.00%

#### <格付構成比>

格付	組入比率
AAA	82.18%
AA	5.72%
A	10.30%
BBB	2.27%
BB以下	0.03%
A1/P1	-0.50%
A2/P2	0.00%
合計	100.00%

#### <種別別配分>

セクター名	組入比率
国債、エージェンシー債	74.88%
モーゲージ債、アセットバック債	1.74%
社債	22.09%
キャッシュ等*	1.29%
合計	100.00%

※「キャッシュ等」にはCP等も含まれます。

#### <運用コメント>

##### <市場コメント>

米国債券相場は、月を通してみると堅調な結果となりました。月前半は市場予想を上回る経済指標や入札前の調整が影響し、レンジ内をもみ合う推移となりました。しかしその後、入札結果が好調であった他、弱めの経済指標が発表されると、債券相場は上昇(利回りは低下)に転じ、堅調な結果となりました。(2年債利回りは前月比0.02%、10年債利回りは前月比0.09%低下しました。)

欧州債券相場は、堅調な経済指標や株式相場の上昇を背景に一時下落(利回りは上昇)する局面もあったものの、その後は弱めの経済指標やECB当局者からの金融緩和政策の長期化を示唆する発言等がサポート材料となり、相場は上昇(利回りは下落)に転じ、月を通じてみると堅調な結果となりました。(2年債利回りは前月比0.02%上昇、10年債利回りは前月比0.04%低下しました。)英国債券相場は、BOE(イングランド銀行)の量的緩和策が当面継続されることが相場にプラスとなる局面もあったものの、堅調な経済指標や高値圏で推移する株式市場が重石となり、月を通じてみると相場は軟調な結果となりました。(2年債利回りは前月比0.02%、10年債利回りは前月比0.04%上昇しました。)

日本債券相場は、当初は強弱入り混じった経済指標からレンジ内を上下する方向感に乏しい展開となりましたが、国内株式市場の反落などをを受け堅調に転じ、月を通じてみると堅調な結果となりました。(2年債利回りは前月比0.01%、10年債利回りは前月比0.01%低下しました。)

##### <パフォーマンス>

先月のパフォーマンスはマイナス1.26%となり、ベンチマークを0.74%上回りました。米国・欧州をオーバーウェイトとした金利戦略や社債への投資といったセクター戦略がプラスに寄与しました。一方、米国におけるスティーピング(長短金利差の拡大)を見込んだ戦略はマイナスに寄与しました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 日本債券型(GW)

運用方針

国内の物価連動債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的に安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	設定来
日本債券型 (GW)	1.00%	4.19%	5.59%	▲2.45%	▲4.96%

## 特別勘定資産内訳

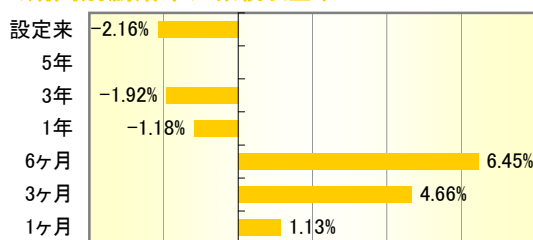
	構成比(%)
現預金・その他	2.9%
投資信託	97.1%
合計	100.0%

### 【参考】日本債券型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## MHAM物価連動国債ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:みずほ投信投資顧問株式会社)

### <期間別騰落率> 累積収益率



※累積収益率は、ファンドの決算時に収益分配があった場合にその分配金(課税前)を再投資したものと算出。  
※累積収益率は実際の投資家利回りと異なります。

### <組入上位5銘柄の組入比率>

	銘柄名	利率	償還日	比率
1	第4回物価連動国債(10年)	0.500%	2015/06/10	34.9%
2	第2回物価連動国債(10年)	1.100%	2014/06/10	23.5%
3	第12回物価連動国債(10年)	1.200%	2017/06/10	19.2%
4	第3回物価連動国債(10年)	0.500%	2014/12/10	12.7%
5	第1回物価連動国債(10年)	1.200%	2014/03/10	7.1%

### <ポートフォリオの状況>

組入銘柄数	6銘柄
公社債の平均残存期間	5.69年

※組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

国内債現物	99.0%
国内債先物	0.0%
その他資産	1.0%

※その他資産は、100%から国内債現物・国内債先物の組入比率の合計を差し引いたものです。

### <公社債の残存期間別組入比率>

残存年数	比率
1年未満	0.0%
1年～3年	0.0%
3年～7年	79.8%
7年～10年	19.2%
10年以上	0.0%

※組入上位5銘柄の組入比率、公社債の残存期間別組入比率は純資産総額に対する比率を表示しています。

### <運用コメント>

#### ■先月の投資環境

第1回物価連動国債利回りは、9月末現在で1.484%と前月末比0.26%低下しました。

第1回物価連動国債とほぼ同じ期間の10年長期国債(第258回債)との複利利回り格差(物価連動国債が償還までどれだけの物価上昇(年率)を織込んでいるかを示す値=ブレイクイーブンインフレ率)は、月初マイナス1.1%台半ばで始まり、中旬にかけてもみ合う展開となりました。中旬以降は縮小傾向で推移し、マイナス0.9%台半ばで月末を迎えました。この結果、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅は前月末比で縮小しております。

第1回物価連動国債とほぼ同じ期間の10年長期国債利回りが低下(10年長期国債(第258回債)複利利回りで0.04%の利回り低下)したに加え、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅が縮小したことから、第1回物価連動国債の利回りは低下しました。同様に第2回～第16回の物価連動国債の利回りについても低下しました。

また、全国消費者物価指数(生鮮食品を除く総合指数。以下コアCPIという。)から算出する物価連動国債の9月末の連動係数は、8月末比0.2%程度低下しました。

#### ■先月の運用概況

物価連動国債を高位に組入れているポートフォリオを維持しました。

組入れた公社債の平均残存期間は5.69年となっております。

かかる運用の結果、物価連動国債の連動係数の低下がマイナスに影響したものの、ブレイクイーブンインフレ率のマイナス幅が縮小したことや、10年長期国債利回りが低下したこと等がプラスに寄与したことから、当ファンドの9月末の基準価額は9,646円と前月末比73円の上昇となりました。

なお、9月25日に決算を迎え、1万円当たり35円の分配を行いました。

#### ■今後の運用方針

物価連動国債が参照する物価指数であるコアCPIの足元の状況については、2008年半ば以降、原油価格が急落したことや、世界的な景気後退の中で物価低下圧力が強まったこと等もあり、9月末に発表された8月分のコアCPIの値が前年同月比マイナス2.4%とマイナス幅が拡大しており、今後についても前年同月比でマイナスが続く可能性が高いと見込んでおります。

物価連動国債市場を取り巻く環境につきましては、引続き財務省による買入・売却等の材料もあり、以前と比較すれば需給環境は大きく改善してきたと考えております。従って、買入・売却等の需給面のサポートはあるものの、物価低下圧力が強まっていることもあり、引き続きブレイクイーブンインフレ率の動向を注視していく必要があると考えます。

今後につきましても、期待インフレ率及びコアCPIの変化に備えたポートフォリオを維持していく方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

# 海外リート型 (GW)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信 (REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

## ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
海外リート型 (GW)	3.31%	25.21%	64.08%	▲28.95%	▲50.79%

## 特別勘定資産内訳

	構成比 (%)
現預金・その他	2.8%
投資信託	97.2%
合計	100.0%

【参考】 海外リート(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

## ノムラ海外REIT インデックス・ファンドVA (適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

### <基準価額の騰落率>

	1か月	3か月	6か月	1年	設定来
ノムラ海外REITインデックスファンドVA	3.5%	26.5%	68.5%	▲28.5%	▲45.7%
ベンチマーク	3.2%	27.0%	69.9%	▲28.9%	▲44.5%

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」は「ザ・マグロウヒル・カンパニーズの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しかなる意思表明を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。

※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、円換算ベース) はS&P先進国REIT指数 (除く日本、配当込み、ドルベース) を委託会社において円換算したものです。

### <資産配分比率>

資産種別	純資産比
REIT (リート)	99.4%
その他	0.6%
合計(※)	100.0%

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示しておりません。  
 ※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

### <実質通貨別配分>

通貨	純資産比
日本・円	0.1%
外貨計	99.9%
アメリカ・ドル	54.9%
ユーロ	12.7%
イギリス・ポンド	8.4%
その他外貨	23.9%

・実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

### <国・地域別配分>

国・地域名	純資産比
アメリカ	54.8%
オーストラリア	16.3%
フランス	8.7%
イギリス	8.4%
シンガポール	3.1%
その他の国	8.7%
合計	100.0%

### <REIT 組入上位10銘柄>

	銘柄名	国・地域名	純資産比
1	WESTFIELD GROUP	オーストラリア	6.9%
2	SIMON PROPERTY GROUP INC	アメリカ	5.2%
3	UNIBAIL RODAMCO SE	フランス	4.8%
4	PUBLIC STORAGE	アメリカ	2.7%
5	VORNADO REALTY TRUST	アメリカ	2.7%
6	BOSTON PROPERTIES	アメリカ	2.4%
7	HCP INC	アメリカ	2.2%
8	EQUITY RESIDENTIAL	アメリカ	2.2%
9	STOCKLAND TRUST GROUP	オーストラリア	2.2%
10	LAND SECURITIES GROUP PLC	イギリス	2.0%

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

※国・地域名は発行国・地域で区分しております。

### <市場コメント>

●米小売関連などの経済指標が改善し、景気回復期待が高まったことなどを背景に、外国リート市場は上昇しました。

(野村アセットマネジメント作成)

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。



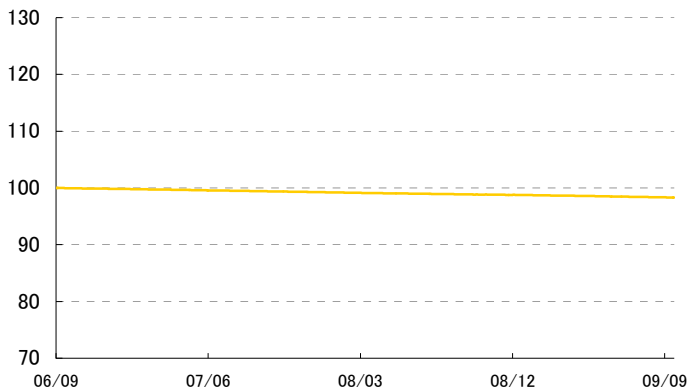
特別勘定名称

# マネープール型(GW)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

## ユニット・プライスの推移



## ユニット・プライスの騰落率

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
マネープール型 (GW)	▲0.05%	▲0.16%	▲0.32%	▲0.56%	▲1.69%

## 特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現預金・その他	13.2%
投資信託	86.8%
合計	100.0%

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(「100」として指数化した)を指します。

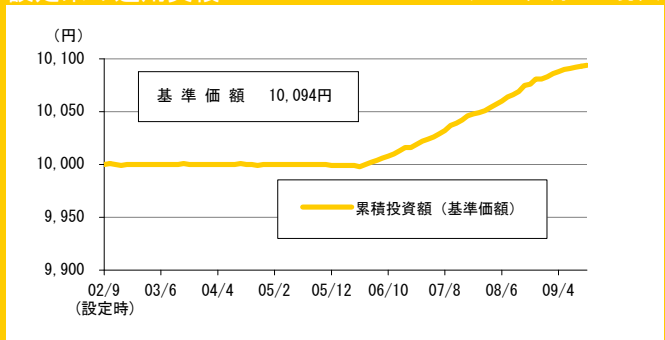
## 【参考】マネープール型(GW)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

### フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を主要な投資対象とし、安定した収益の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

#### 設定来の運用実績 (2009年9月30日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。  
 ただし、申込手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。  
 ※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。  
 ※基準価額は信託報酬控除後のものです。

純資産総額 143.4 億円 (2009年9月30日現在)

#### 商品概要 2009年10月(月次改訂)

形態	追加型投信/国内/債券
投資対象	本邦通貨表示の公社債等
設定日	2002年9月20日
信託期間	原則無期限
決算日	原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日)

#### 累積リターン (2009年9月30日現在)

	直近1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	設定来
ファンド	0.01%	0.03%	0.08%	0.25%	0.94%

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

#### 過去5期分の収益分配金(税込み)

第3期(2004.11.30)	0円
第4期(2005.11.30)	0円
第5期(2006.11.30)	0円
第6期(2007.11.30)	0円
第7期(2008.12.01)	0円

#### (2009年8月31日現在)

#### <資産別組入状況>

債券	96.9%
CP	-
CD	-
現金・その他	3.1%

#### <組入資産格付内訳>

長期債券格付	AAA/Aaa	-
	AA/Aa	96.9%
	A	-
短期債券格付	A-1/P-1	-
	A-2/P-2	-
現金・その他		3.1%

平均残存日数	45.92日
平均残存年数	0.13年

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。(「プラス/マイナス」の符号は省略しています。)なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

#### 組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2009年8月31日現在)

	銘柄	種類	格付	比率
1	第47回 国庫短期証券 2009/11/16	債券	AA/Aa	22.0%
2	第42回 国庫短期証券 2009/10/26	債券	AA/Aa	14.1%
3	第40回 国庫短期証券 2009/10/19	債券	AA/Aa	13.1%
4	第29回 国庫短期証券 2009/09/07	債券	AA/Aa	10.5%
5	第38回 国庫短期証券 2009/10/13	債券	AA/Aa	10.5%
6	第32回 国庫短期証券 2009/09/14	債券	AA/Aa	7.9%
7	第35回 国庫短期証券 2009/09/29	債券	AA/Aa	7.9%
8	第34回 国庫短期証券 2009/09/18	債券	AA/Aa	5.2%
9	第43回 国庫短期証券 2009/11/02	債券	AA/Aa	5.2%
10	第45回 国庫短期証券 2009/11/09	債券	AA/Aa	0.5%

(組入銘柄数:10)

上位10銘柄合計 96.9%  
(対純資産総額比率)

\* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

## ご注意いただきたい事項

### ▲ 投資リスクについて

この保険の措置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて死亡給付金額、年金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

### ▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢などの諸条件により、ご契約者などが受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

### ▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料(増額保険料を含む)に対して <b>5.0%</b> を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して (年率 <b>0.75%</b> +運用実績に応じた費用(※))/365日を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、運用実績が年率 <b>1.5%</b> を超過した場合のみ、 <b>超過分1%あたり0.1%(上限1.25%)</b> を控除します。
契約管理費	基本保険金額が100万円未満のご契約に対し、 <b>毎月500円</b> を積立金から控除します。
移転費	積立金の移転が年間13回以上のとき、 <b>移転一回につき1,000円</b> を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の <b>1%</b> を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	日本株インデックス型(GW) 年率 <b>0.42%</b> 程度
	日本株アクティブ型(GW) 年率 <b>0.924%</b> 程度
	海外株式型(GW) 年率 <b>0.399%</b> 程度
	新興成長国株式型(GW) 年率 <b>1.155%</b> 程度
	海外債券型(GW) 年率 <b>0.9135%</b> 程度
	日本債券型(GW) 年率 <b>0.252%~0.3675%</b> 程度
	海外リート型(GW) 年率 <b>0.42%</b> 程度
	マネープール型(GW) 年率 <b>0.008925%~0.525%</b> 程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

## その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「ダイレクト年金 e-VA」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「ダイレクト年金 e-VA」には「特別勘定グループ(GW)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(GW)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(GW)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)特別勘定グループ(GW)「ダイレクト年金 e-VA」は現在販売しておりません。